

7. センター名：こどもサポートふらの（北海道中富良野町・上富良野町）

委託：NPO 法人こどもサポートふらの

提供会員の確保について

1 確保が必要となった背景や課題

現在は、提供会員の不足を感じていない。そもそも立ち上げが、当事者のお母さんたちで必要な仕組みだということで、病児の預かりが富良野管内になかったことで、病児が出たときにお母さまがパートを辞めざるを得なかったという話があったりということで、お母さん同士で問題意識があった。それで、自分たちで病児保育をしようということからまずは立ち上がった団体だということがそもそもの経緯である。なので、お母さん主体の運営で、お母さん、当事者がまさに相互援助しているという色合いがとても強い団体である。

2 提供会員不足を補うためにどのような取り組みを実施したか。

町の広報、Facebook 等の SNS を活用している。

(1) 工夫した点

お母さんたちの口コミが一番威力があるので、口コミというのは、会員との関係をいいものにしておけばおおくほど勝手に口コミが広がるという。

(2) 結果について

①提供会員の数の増加について

提供会員だけという方は当初からはいなくて、両方会員で登録されていた方が多い。そのお子さんが成長してきて、「では、私、提供会員としての登録に変更します。」みたいなケースの方が多いので、提供会員のみの伸びは緩やかだと思う。

②結果や会員全体への効果等について

お母さん同士の口コミで活動が周知されていることが多いので、イメージ的にも、若い方同士でやっていると思われるケース

が聞こえてきている。多世代で支え合える方がいいと思っているので、ご高齢の方につながるような手だてというのは私たちの課題だと感じている。

3 確保を実現できたポイント

(1) 結果を出すために重要となったポイントについて

お母さんたちの口コミが一番威力があるので、口コミというのは、会員との関係をいいものにしておけばおおくほど勝手に口コミが広がるという。養成講座については、両方会員の若いお母さんたちが子育ての期間中に 24 時間びっちり受けるのは難しいだろうから、受けられなかった講座はまた次に受けてくださいということで延長している。逆に言うと、それをつながり続けられるいい手法なのである。受けられなかった講座は必ず受けていただくことで、つながり続けていくという形で、1 回の講座で必ず全部受けてくださいというインフォメーションはしていない。

4 今後の確保のための改善点と改善策

(1) 今後の目標や目指すところ、取り組みたいこと等

多世代で支え合える方がいいと思っているので、ご高齢の方につながるような手だてというのは私たちの課題だと感じている。

(2) 事業を行うにあたっての提供会員の重要性

会員が安心・安全に活動できるようアドバイザーと会員とのかかわりについて考えること

2 年前ぐらいから公式 LINE を使うようになって、今は LINE でやりとりがすごく多くなっている。ほぼ LINE である。事前連絡はなるべく私たちも入れるようにして、「明日よろしくお願ひします」という再確認はして、送迎を含むことなど、車を使ってくれる場合は LINE を使って報告してもらおうとか、そういったやりとりはしている。

あとは Google カレンダーを使っているの、Google カレンダーを共有して、サポートがあるとそこにに入れていくようにしているので、アドバイザーもサブリーダーも、調整などを手伝ってくれているメンバーはみんなどこからでも見られる形になっている。

養成講座に関しては、チームメイクというか、サポーターというのは地域で子育てを応援する応援団だよ、私たちの仲間だよ、チームだよというような、チームづくりの講座というか、最初のご説明の中にそういうのを入れて、そういったワークショップ的なことも含める時間を最初に設けている。そこから講座に入るようにしているので、何か楽しいなという気持ちになっていただけるように、最初に作って導入している感じである。その後は 24 時間びっちり講座をしている。

困難事例への対応

1 困難事例の対応のための体制、連携先

(1) 関係機関との連携について

市の担当課、同じ建物にある子育て支援センターと発達支援センター、隣の富良野市の医療機関と連携をとっている。

(2) 連携のために工夫している点

定期的な会議等ではなく、随時、相互に連絡を取り合っている。

2 困難事例への対応事例と対応にあたって重視した点

(1) 実際に対応した困難事例で適切な対応ができたと思う活動について

お母さんとのコミュニケーションの難しさを感じる事例があり、乳幼児を4人育てているご家庭で、夕方時の食事、入浴など、一人ではフォローが難しい時間帯にファミサポを使って介助する、お手伝いするというケースがあった。お母さんがいながら提供会員が入るといった難しさ。お母さんは提供会員が入ることによって任せてしまうとか、そういう難しさがあったので、そこにはアドバイザーが必ず入ってつなげるというような仕組みを作った。

(2) 適切な対応を行うためのポイントや必要と考える体制や対応について

なかなか難しさがあったので、行政の方ともつながって、そこは養育支援要家庭だったので、後々そういう支援につながっていったというケースもある。なので、何かある場合には必ず行政とか関係機関とか、ここにはつなげたいということとは連携してやっていくようにしている。

3 困難事例、配慮が必要な家庭との向き合い方

(1) 困難事例に対して

心配な家庭に関しては、いきなり提供会員につなげるのはリスクが高いと感じる場合はアドバイザーが入るようにしている。アドバイザーが様子を確認して、どのようにサポートができるのかとまず現場の状況を確認して、その上で、これなら提供会員につなげよう、でもこの提供会員だと難しいからこの提供会員だな、といった感じで、スキルの高い人につなげていき、徐々に徐々にという形になっている。

(2) 配慮が必要な家庭に対して

妊婦のときからつながってもらえたら私たちも安心だなと思っている。妊婦さんと繋がるために、保健師との連携が大切なので、機会あるごとにコミュニケーションがとれるよう働きかけている。ただ個人情報の関係もあるから、なかなか情報共有することが難しく感じている。

特色ある取組について

1 時代に合わせた会員との関係について

会員への連絡手段として、LINEを使用している。公式LINEというオフィシャルなものなので、私たち事務局側から発信するものは会員が見られるのだが、そこに返事を頂いた場合は会員が見ることはできない。返事を下さった会員と私たち管理側だけが見ることができるので、そのやりとりはできるが、トーク画面にみんなが入り乱れて入るといったイメージでは全くない。なので、当事者とのやりとりをプライベートを守りながらできる形である。

これからの地域の子育て支援において、ファミリー・サポート・センター事業のあり方について

地域で支え合う子育てということがやはり一番の理念だと思う。私は自分が養育里親もやっていて、私は養育里親もファミサポも一筋の流れの中にあると思っている。こどもサポートふらのでやっているファミサポは、どちらかというと養育困難にならないように予防する事業だと思っているが、予防し切れなくて行き着いたところに里親という仕組みが必要で、それも全部地域の中で支え合う仕組みの一つの流れの中にあると思っている。なので、私自身が里親をやっているということを知ったファミサポの提供会員、依頼会員、両方会員が、実際に里親の認定を受けてくださって里親になってくださっていたりすることもありまして、やはり地域で子どもを育てるのだ、守るのだというようなものを生み出しやすい、作りやすい空気感を皆で育てていきやすいのがファミサポかなと思っています。ファミサポはある意味そういった受け皿、子どもたちがこぼれ落ちないような受け皿として、本当に最後のセーフティネットかなと思っています。そのセーフティネットで、地域に住んでいる人たちが自分たちで相互援助をするのだ、自分たちで助け合うのだということが本当に育っていけば、里親だったり一時保護だったり、そういった社会的養護的なものも地域で担えるのではないかなと思っています。

8. センター名：いるまファミリー・サポート・センター（埼玉県入間市）

委託：社会福祉法人 入間市社会福祉協議会

提供会員の確保について

1 確保が必要となった背景や課題

事業を開始して丸 18 年たっている。初期に登録してくださった方の多くは 70 代後半を迎えている。当時、講習会には毎回 20 名を超えるような参加者がいて、託児付きの講習会などをすると子育て中の方もたくさん参加されて、両方会員も増えていたが、年々参加者は減っていき、特に講習時間を 24 時間にしたら参加者が 10 名以下となることが増えてきた。社会の変化で就労する方が増え、時間的にも気持ち的にも余裕のある方が少なくなってきた背景もあると思う。

2 提供会員が不足していった経緯や問題だった点

近年、送迎の依頼が増えていることで、車を使える方がなかなか増えない現状もあったりする。今、支えてくださっている 70 代の方々が、この先 5 年たったら活動できるかというと、やはりお願いできにくくなるということもある。

3 提供会員不足を補うためにどのような取り組みを実施したか。

FM ラジオでの広報や HP の活用、ポスター等の掲示、イベントに出向いての PR 活動等も実施しているが一番効果があるのは、やはり市の広報誌に掲載されることと、当センターは社協で受託しているので、広報誌「社協だより」に掲載したりすることが一番効果はあると思っている。

(1) 工夫した点等

実は年々市報掲載スペースを削られて目立たなくなっていたのだが、センター単独の交渉では難しいので、委託元である市の担当課に協力依頼をして、できるだけ大きなスペースを取らせていただくようお願いしている。あとは、地域にポスティングをして歩いたりもしていた。ポスティングをするときは、「この地域の提供会員を探しています」という文言を入れたり、具体的に「〇〇保育所や〇〇学童へ送迎できる方を探しています」というような、具体的なイメージが持てるようなチラシを作っている。

(2) 結果について

①提供会員の数の増加について

チラシに 4 コマ漫画をよく使っている。チラシをたくさん配布しても、毎回直接申し込み者数が増える訳ではないが、その漫画だけちょっと見てくれることでファミサポが無意識に頭に入っていくと思う。

②どのような良い結果があったか、また会員全体への効果・影響等について

何度かチラシを目にすることで「ああ、うちのポストにも入ってたな」「この前もあったな」「広報誌にも出てたな」という何度目かのタイミングで、今回の講習会なら受けられるかなということに参加して下さる方もいらっしやる。草の根活動ではないが、地道な取り組みとして、即効性はないかもしれないが続けていくうちに、一人でも二人でもファミサポを理解してくれる人が地域に増え、また依頼会員さんの周知にもつながっている。

4 確保を実現できたポイント

(1) 結果を出すために重要となったポイントについて

やはり具体的な文言でニーズがあることを伝えることと、繰り返しの広報が重要であると感じている。

5 今後の確保のための改善点と改善策

(1) 事業を行うにあたっての提供会員の重要性

会員が安心・安全に活動できるようアドバイザーと会員とのかかわりについて考えること

元々は地区交流会という形で地域に出向いて、そのエリアの方だけを集めた交流会をやっていたが、現在は全体で「ファミサポまつり」という形で年に 1 回交流会を開催している。三人のアドバイザーだけでは担い切れない部分もあり、提供会員、両方会員、中には依頼会員も含めて全会員にお知らせして、毎回 20 名を超える方々が協力して下さって、準備の段階からアイデアを出し合い一緒に活動することで交流を深めていこうという趣旨で活動してきた。

せっかくの思いで会員登録していただいても活動につながらないとどんどんモチベーションが下がってしまうので、違う形で関わっていただくということで、そのようなボランティア活動を進めている。そうすると、皆さん横のつながりができるので、サポートは一人で個人の活動だが、やはり仲間ができることでより積極的に活動していただけるし、おまつりに来た子どもたちと触れ合えることでとても元気をもらい、また事業にも協力しやすくなる。活性化するという意味では大きな効果があったと思う。また、アドバイザーも一緒に活動することでコミュニケーションが深まり、会員の状況把握ができるとともに、困ったときは相談しやすくなり安全なサポートにもつながっている。

困難事例への対応

1 困難事例の対応のための体制、連携先

(1) 関係機関と連携について

事例によっては、市の担当課、家庭児童相談員、保健師、地域の保育所等との連携を取ることがある。

(2) 連携のために工夫している点

地域子育て拠点の先生方や利用者支援専門員と共に毎月 1 回の定例会議をしているので、そこでお互いの現状を情報交換したりする機会はある。保健師や家児相についてはその都度連絡を取り合うような形である。

2 困難事例への対応事例と対応にあたって重視した点

(1) 実際に対応した困難事例で適切な対応ができたと思う活動について

外国籍のひとり親のお母さんで、家児相から相談があったケースである。このお母さんは心身ともに疾患があり、子ども依存の傾向が見られる。子ども(3歳)にも疾患があるとお母さんからは聞いている。なかなか保育園に登園できないということで送迎の依頼でこちらに来た。お母さんとその子どもは前の保育園になじめず、ファミサポの利用を条件に転園が決まった。低所得なため定期的な依頼にはならないが、この親子に対して理解のある提供会員につながることができて、今は突発的な依頼にも対応してくれて、長い目で見守ってくれている。

(2) 適切な対応を行うためのポイントや必要と考える体制や対応について

依頼会員のお母さんは専門職の方にはちょっとシャッターを閉めてしまう傾向がある。提供会員さんは地域の人として第三者的な立ち位置で関わってくれるので、提供会員さんがいってくださることでバランスを保っており、センターと連絡を取り合いながら臨機応変に対応してもらえるような体制ができていると思う。

3 困難事例、配慮が必要な家庭との向き合い方

(1) 困難事例に対して

ファミサポ設立当初の方が、家児相からかなりハードなケースが繋がってくるが多かったと思う。入間市の子育て施策があまり充実していなかったのも、とりあえずファミサポにという状況が長く続いていた。その頃から保健師や家児相とは顔の見える関係で、事前打合せなどに同行してもらうこともあったし、いい関係が続いている。子ども・子育て支援新制度ができてから、市のいろいろな施策が充実してきたので、本当にハードなものは減ってきた印象がある。最初の頃は、死にたいお母さんのサポートなどもファミサポにつながってきていたが、今は利用者支援専門員が主になっていろいろなところで相談をつないでくれているので、そこができたのが一番重要だと思う。

(2) 配慮が必要な家庭に対して

センターでは、どのようなケースもあまり困難事例というふうに捉えていなくて、ケースによって一つ一つ、障がいがあってもなくても、その人の必要とするものを聞き取って、背景なども考えながら調整している。

特色ある取組について

利用登録に対しての説明会は開いていないので、全て個別に対応している。登録のときに 1 対 1 で事業の説明をしてから登録になるので、そのときに「お互いさまの活動なので、提供会員の都合が悪くなる時もあるし、そこはお母さんも協力してね」というような形で理解してもらっている。中には習い事をファミサポありきで始めようとする方もいらっしゃるの、問い合わせの段階から、お手伝いはするけれどもできないときもあるということはしっかり伝えるようにしている。

また、入間市は転勤族の方が多いので、身内が近くにいない、本当に相談できる人もいない方や、大勢の人がいるところが苦手で拠点に行きにくいというお母さんもいらっしゃる。エネルギーで元気なママは自分でいろいろなところを回れるが、年々、高齢出産も増えていて、そういうお母さんたちの中には一人で行くのが苦手な方もいる。社協の子育て支援であるホームスタートのビジターさんと一緒に拠点に行ってみて、情報共有をしたり、お友達をつくったりするときのきっかけづくりをもらって、そこからいろいろな人と触れ合っていく、ファミサポで自分の時間を持つてみようかな、リフレッシュしてみようかなというふうにつながっていくのもいいのかなと思う。

これからの地域の子育て支援において、ファミリー・サポート・センター事業のあり方について

ファミサポ事業は元々、市の子育て施策ではできない部分を補完するような事業としてスタートしたと思うので、臨機応変に対応して制度の狭間の部分を担ってきた。近年、世の中が子育てしやすい状況に変化してきて、いろいろな施策が充実する一方で、多様な背景を持った方なども増えてきて、子育てしにくい方、悩みや不安を抱える方や配慮が必要な家庭の依頼が増えてきているのも現状だと思う。

入間市では、子どもがどんどん減っていて、今まで年間で千何百人も生まれていたのに今は 800 人台になるぐら

い、少子化が進んでしまっていて、なぜだろうと思う。2人目、3人目を産みたいけれど子育てが大変でつらくて産めないということで踏みとどまることのないように、こういう地域だったら2人目を産んでも大丈夫かなと思ってもらえるような安心して子育てができる温かい地域づくりを目指している。困ったときのお守り代わりにファミサポを利用してほしいと思う。関係者との連携ももちろん必要になってくると思うが、やはりまずは保護者の困りごとや悩みなどをきちんと私たちが受け止めて寄り添うことで、お母さんがいい方向になるように一緒に考えようという姿勢で関わっていくことと、子どもを真ん中においた支援が大事なのかなと思っている。

9. センター名：ファミリー・サポート松田（神奈川県松田町）
委託：社会福祉法人 青い鳥

提供会員の確保について

1 確保が必要となった背景や課題

令和3年4月1日の松田町の人口10,521名に対してファミリー・サポート松田の会員数は367名、令和2年度のサポート件数は693件である。提供会員が不足しているという認識はない。

2 提供会員が不足していった経緯や問題だった点

提供会員は高齢化による退会者が増え、両方会員は仕事を始める方が多くなってきた。依頼は全てつなぐことができている。新型コロナウイルス感染発生以降、他のボランティア活動ができなくなったことや社会的な使命感などから、提供会員は(本当に危険な時期を除いて)ファミリー・サポートの活動に力を入れてくださっている。

3 提供会員不足を補うためにどのような取り組みを実施したか。

自分から提供会員になりたいと申し出る方は稀なので、町の民生児童部会、健康づくり普及員、母子保健推進員、町内の保育サークルボランティアの会合や研修に出向いてPRを行った。

(1)工夫した点

提供会員研修会は、ファミリー・サポートを知っていただく為の第1歩で、その講義は他のボランティア活動をしている方にも子育て中の保護者にも魅力的な内容だと思う。PRを行った団体やサポートの依頼が多い依頼会員、併設する子育て支援センターに頻繁に来所するママたちに、提供会員研修会への参加や両方会員への登録を促した。提供会員登録後は間を置かず、子育て支援センターとの共催行事(リフレッシュ講座)にママたちが参加している間、子育て支援センターのフリースペースでベテラン提供会員に交じって、10人の子どもを1対1で預かる体験をしていただいた。

(2)上記の取り組みで苦労した点とその対応について

初めてサポート活動を行う方には、ベテラン提供会員がどんな風に預かりをしているか、また、子育て支援センターで子どもたちが伸び伸び遊ぶ姿を見ていただくことが重要だと考えている。提供会員と子どものマッチングについては悩むところだが、預かりの現場で提供会員と子どもとママとの思いがけない化学反応をたくさん見たので、あまり考えすぎないようにしている。

(3)結果について

①提供会員の数の増加について

提供会員の増加あり。

②どのような良い結果があったか、また会員全体への効果・影響等について

提供会員宅での預かりは、提供会員・依頼会員双方が少し重たいと感じているようだ。アドバイザーの手と他のママたちの目がある中での子育て支援センター預かりが増えている。

4 確保を実現できたポイント

(1)結果を出すために重要となったポイントについて

出掛けた先のいづれどこでもファミリー・サポートの話ができるように準備していること。

5 今後の確保のための改善点と改善策

(1)今後の目標や目指すところ、取り組みたいこと等

提供会員は人数の多寡ではなく、提供会員一人ひとりの人生の中で会員として活動できる時期とできない時期があることを理解して、長いおつきあいをしていくことが重要ではないかと思う。活動できる時期は、子育てや仕事や介護が一段落した時もそうだが、その方の心にちょっとした余裕がある時。差し上げたお便りに返信をくださった時、交流会にお顔を出してくださった時、電話を差し上げたら話が弾んだ時など。まさにその時に、ファミリー・サポートが、“あなたが必要です。手を貸してください！”というメッセージを出せなければせっかくの機会を逃す。また、今は活動できない時期でも、折々の声掛けを忘れないようにするとか、人のおつきあいの基本的な部分を抑えることが大事だと思う。

(2)事業を行うにあたっての提供会員の重要性

会員が安心・安全に活動できるようアドバイザーと会員とのかかわりについて考えること

その日のサポート活動を正確にアドバイザーが把握していること。荒天時のサポートについて早くに対応をすること、長い期間のサポートが打合せの通り危険のないように行われているかの確認をすること等、事務的な仕事をきちんと行うことが会員からの信頼を得ることになると思う。

困難事例への対応

1 困難事例の対応のための体制、連携先

(1) 関係機関と連携について

行政(子育て健康課担当者、保健師)からの情報は多い。

(2) 連携のために工夫している点

乳幼児健康診査・育児相談開催時のPRと月に1度の報告会議で情報交換を行っている。

2 困難事例への対応事例と対応にあたって重視した点

(1) 実際に対応した困難事例で適切な対応ができたと思う活動について

精神疾患を抱えるママの事例。常に情緒不安定で、保健師・保育園園長・警察・病院・子育て支援センターなどの至る所に自分から相談をしていた。離婚が成立し新たな職を得て徐々に依頼は減り、2020年を最後にサポートは終了した。

(2) 適切な対応を行うためのポイントや必要と考える体制や対応について

行政と子育て支援センターとの連携を常に取り、提供会員との連絡を密にしていた。

3 困難事例、配慮が必要な家庭との向き合い方

(1) 困難事例に対して

関係機関との連携と提供会員との連絡を取りつつ、ファミリー・サポートができることを最大限行う。

(2) 配慮が必要な家庭に対して

同上

特色ある取組について

・行政と子育て支援センターとの情報交換。

・コーヒー1杯分の時間でリフレッシュを！

という町長の発案で始まったファミリー・サポート料金の助成制度は、1回の利用につき30分の基本料金を助成するもので、サポート件数の増加につながった。

これからの地域の子育て支援において、ファミリー・サポート・センター事業のあり方について

・事前打合せが済んだ後も、ファミリー・サポートを通してでないと依頼ができない方

・子どもを見てくれるなら誰でもいいという方

・人見知りで、一人の提供会員に固執する方

・子どもと一時も離れてられない方

心の幼いママたちが増えている。

ファミリー・サポートも提供会員さんも、事前打合せの時に親身に話を聞いて心配してくれて、子育て支援センターや近所で会えば声をかけてくれるし、相談できて心強い。と、ママたちが思えるなら。また、提供会員さんに対して感謝する気持ちを忘れずにいられるなら。

ファミリー・サポートがその部分を失わなければ、今後も事業として続いて行くと思う。

10. センター名：長岡市ファミリー・サポート・センター（新潟県長岡市）

直営：長岡市教育委員会 子ども未来部子ども・子育て課

提供会員の確保について

1 確保が必要となった背景や課題

開設時、依頼会員よりも提供会員を増やすために講座を前倒して実施したため、最初から不足していたという状況はなく、その後も提供会員は増えていった。

2 提供会員が不足していった経緯や問題だった点

ただ、平成24年に現況調査を行い、「退会される方」という文書を作って送付したところ、一気に退会が増えたことがあった。その後は、文書の書き方に工夫を行った結果、年10名ほど増加し、良い流れで提供会員を確保できている。

3 提供会員不足を補うためにどのような取り組みを実施したか。

(1) 工夫した点

・大がかりなことには行っていない。市の広報や、会員募集のチラシ配布、交流会の形で地域に出向いたこともあったが、2年ほどは実施出来ていない状況。

・サブリーダーを活用したグループワークを常々講座のなかで行っており、効果的である。登録したいと思って受講されている方々の不安を払拭させるためにサブリーダーに手伝ってもらうことは良いと思う。長岡市ではサブリーダーに対して、月1,000円の謝礼を年度末にまとめて市からお支払いしている。

(3) 結果について

①提供会員の数の増加について

会員の数は同数が推移したり、増加したりしている。

②会員全体への効果・影響等について

サブリーダーの役割が大きいと感じている。サブリーダーは熱心な方が多く、アドバイザーともコミュニケーションをとっている。サブリーダー会議自体は年2回だが、ファミサポの状況や展望も含めてお話しているため、士気が高い方が多い。

4 確保を実現できたポイント

(1) 結果を出すために重要となったポイントについて

・退会の意向を示される提供会員に対しても、「こういうことができるのだったら、残っていただければありがたいです」というようなことをお伝えすると、提供会員の登録状況の改善にもつながる。

・一定期間で会員を切るということには行っていない。幽霊会員の方々に対して電話をかけると、残ってくださる方もいる。

5 今後の確保のための改善点と改善策

(1) 今後の目標や目指すところ、取り組みたいこと等

・母子保健推進員の会に出向こうと考えている。提供会員で母子保健推進員を兼任されている方がいるが、新たに母子保健推進員に提供会員の話を聞き登録に結び付けられればと考えている。

・効果的であると感じるサブリーダーを活用したグループワークの回数を増やしていきたい。

(2) 事業を行うにあたっての提供会員の重要性

会員が安心・安全に活動できるようアドバイザーと会員とのかかわりについて考えること

・提供会員、両方会員にかかわらず、本人の意思を大切にすることとは確実にできることであるため、本人の希望、やりたいことを明確にして支援に移すことを心掛けている。

・依頼会員に対して、長岡市は子育て支援が活発であるため、登録に来た際にはファミサポだけではなく、いろいろな選択肢があることをお伝えしている。

・会員からの問い合わせには、早急に回答するよう対応している。

困難事例への対応

1 困難事例の対応のための体制、連携先

(1) 関係機関と連携について

・子ども・子育て課に家庭児童相談室があり、そこからファミサポに回ってくる事例がある。互いに報告、情報共有することが日常的にある。

・子ども・子育て課に、保健師や母子保健推進員、民生委員が話をもってくることはあるが、それ以外の専門機

関と深くつながっているわけではない。

・子育て支援施設の子育ての駅ちびっこ広場のなかにファミサポ事務局が入っているので、支援の方法について、ちびっこ広場の園長や子ども・子育て課の担当と共有することがある。

2 困難事例への対応事例と対応にあたって重視した点

(1) 実際に対応した困難事例で適切な対応ができたと思う活動について

長岡市は中学生でも障がいのあるお子さんはサポートを行うことになっている。ここ数年、1年に1回ほど困難事例の依頼がある。中学生の体が不自由なお子さんの送迎支援について、介助はできないため、介助部分を他の方が実施し、ファミサポは送迎支援のみを行うことで対応できたことがある。ただ、支援が実現しない場合もあるため、できるところだけを行っている。

(2) 適切な対応を行うためのポイントや必要と考える体制や対応について

どこまで支援を行えるのか迷うことが多いため、課に相談したり、アドバイザーが意見を出し合って相談したりしている。そのほか、支援可能な提供会員を選ぶ点が一番のハードルであるため、提供会員に対してのフォローも行う必要がある。

3 困難事例、配慮が必要な家庭との向き合い方

・ファミサポが行える内容を、課や他機関と連携してアドバイスを受けながら行う必要がある。その際、情報共有を行う必要があるが、入り込んでしまわないよう、適度な距離感を保つようにしている。

・長岡市は直営のため、行政の限界もあることは会員も承知の上活動している。

特色ある取組について

1 サブリーダーの積極的な活用

・サブリーダーの役割が特徴的であり、講座の初回と最終回に実施するグループワークに同席したり、センター運営にも深くかかわっている。

これからの地域の子育て支援において、ファミリー・サポート・センター事業のあり方について

・ファミサポ事務局が入っている子育て支援施設は保育士、幼稚園教諭、保健師が近くにおられるが、提供会員はそのような環境にない。専門職ではないため、あくまでもボランティア活動であることを念頭に、無理のない支援を行ってもらうことが必要であると思っている。

・長岡市内には病児施設が2施設、病後児施設が8施設あるため、提供会員に病児・病後児はお願いしていない。

・長岡市では地域活動という点で、依頼会員の自宅で預かる活動も行っている。今後依頼会員に合わせた対応がさらに必要になってくると感じる。

1 1. センター名：きたかた子育てサポートセンター（福島県喜多方市）

委託：NPO 法人クラブまちてらす

提供会員の確保について

1 確保が必要となった背景や課題

不足していると感じたことはなく、比較的確保されていると感じている。ただし、今後リタイヤされる提供会員も多くなるだろうと予測しているため、若い世代へのアプローチの工夫を始めている。

3 提供会員不足を補うためにどのような取り組みを実施したか。

(1) 工夫した点

- ・当初市の広報で周知していたが、新聞の折り込みにチラシを入れたところ、少しずつ若い層が参加してくれるようになった。
- ・委託先の NPO 法人で行っている子育てひろばの利用者に直接声をかけたところ、盛り上がりを見せた（ファミサポ、子育てひろば、ホームスタートの3本柱で NPO 法人の子育て支援を行っている）。
- ・リタイヤされる提供会員の労をねぎらってお話をお伺いしていたところ、ご自身の妹、ご友人を紹介してくれ、戦力になってくれている。
- ・喜多方市は面積が広く、講習会は年に1度、複数か所で行っている。地域ごとに行くことで、その地域の人たちが集まってくれ、誕生した提供会員のなかからサブリーダーをお願いし、その地域は地域の皆さんでサポートするという体制が整っている。

(2) 結果について

①提供会員の数の増加について

提供会員の数は年々増えている

②会員全体への効果や影響について

会員同士非常に仲が良い。ファミサポだけではなく、喜多方市の委託事業である集団託児などを通じて、横のつながりができている。スキルアップ研修を呼びかけると軽く40名ほどが集まってくれる。アドバイザーが会員をというよりも、提供会員同士で仲良くなり、先輩の提供会員が後輩を育ててくれている状況がある。今までで、サポートをお断りしたのは、あまりに提供会員に負担がかかる依頼の1件のみで、それ以外はほぼ受け入れることができている。

4 確保を実現できたポイント

(1) 結果を出すために重要となったポイントについて

先輩の提供会員が後輩を育ててくれている状況がある。そのために、講習会のあとにスキルアップ講座を1時間設け、その後、修了式および交流会を行い、お茶会を楽しんでいる。5～6人で座るテーブルを5～6島作り、新しく修了した提供会員も交じってもらい、クイズやゲームなどをして馴染んでもらう。そこで一気に近くなるようで、託児の様子などを聞いて、頑張っていこうと思う人が多い様子である。

困難事例への対応

1 困難事例の対応のための体制、連携先

(1) 関係機関との連携について

- ・支援学校への送迎の事例に関して、車で30-40分の支援中に、シートベルトから抜け出して車中で動き回ってしまうお子さんがおられた。
→支援学校の先生に相談したところ、絵を描いて、ジェスチャーなどでレクチャーしてくださった。それ以降シートベルトをして乗車できるようになった。
- ・デイサービスからの送迎(支援学校のお子さん)に関して、月に1-2回程度の支援だが、時々、発作が起きるお子さんの支援が実施された。
→病院にお伺いし、病院の先生、保護者、支援学校の先生、デイサービスの先生とともに事前打ち合わせを行い、発作が出た際の対処方法を打ち合わせた。3年ほど支援を行ったが、何事もなく支援が終了した。
- ・近年、病児預かりが増えている気がする。子育てひろばの個室で見るとの対応を行えているが、場所がなければ対応が難しいと感じている。

2 困難事例、配慮が必要な家庭との向き合い方

今後、困難なお子さんへの対応が生じる可能性があるため、喜多方市では、看護師や保育士 OB の方を拾い出

して、グループを作り、「他の提供会員たちにアドバイスしてください」というようなプロジェクトチームを作っていくことを考えている。具体的にどのようになっていくかは未知数だが、関係する人たちとコンタクトを取り始めている。

特色ある取組について

- ・福島県浜通りからの避難所の集団託児を、毎週金曜日2か月半ほど行っていた。
- ・委託先のNPO法人として、ファミサポのほか、子育てひろば、ホームスタートを行っているのが特徴である。
- ・今後、ファミサポ用のプチひろばも作りたいと考えている。ファミサポの活動も、ひろばがなければ厳しかったと感じている。

これからの地域の子育て支援において、ファミリー・サポート・センター事業のあり方について

喜多方市内では小規模保育園が近年5か所新設されるなど、支援の充実が図られ、ほぼ毎日の預かりなどは減ってきている。一方、充実した半面、困難家庭や困難ケースが増えてくるかと思う。コロナ禍で病児・病後児専用の保育園から断られるケースも増えているため、プロジェクトチームのように、看護師や専門職に意見をもらいながら、病児・病後児依頼にも応えられるよう、今後の運営を考えていきたいと思っている。

12. センター名：いずもファミリーサポートセンター（島根県出雲市）

直営：出雲市役所 子ども政策課

提供会員の確保について

1 確保が必要となった背景や課題

特に挙げられるきっかけはなく、慢性的に不足している。

2 提供会員が不足していった経緯や問題だった点

他人の子を預かる、送迎することへの責任の重さ。昔に比べ、一人一人けがをさせてはいけないなど、神経質にならざるを得ない情勢がある。

3 提供会員不足を補うためにどのような取り組みを実施したか。

(1)工夫した点

・依頼会員に対して両方会員への種別変更をお願いする。

例えば、児童クラブへのお迎えの依頼に対して提供会員とのマッチングが難しい場合、同じ児童クラブに子どもを通わせている依頼会員に打診し了解を得、両方会員に種別変更してサポートをしてもらった。それ以降も別のサポートを受けてもらうことが出来たケースもあり、サポートの輪を広げることにつながった。

・会員調査(年1回)を行い、各家庭の現況を把握し、最新情報をもとにサポートの打診を行うことでスムーズなマッチングができた。また、その情報により、声かけを遠慮していた休眠状態の提供会員にも声をかけるきっかけができ、稼働できる提供会員の増加につながった。

・サポートに対して積極的な提供会員には、負担にならないように留意しながら複数人のサポートを依頼している。

(2)上記の取り組みで苦勞した点とその対応について

・マッチングに関して、サポート内容によっては引き受け手が見つからないケースもあるが、諦めずに探す。

・複数人のサポートを依頼する場合、安全にサポートが行われることが重要なので、無理のないサポートスケジュールを組むことに配慮した。

(3)結果について

①提供会員の数の増加について

令和3年度(10月まで)は3名、令和2年度は7名、令和元年度は14名、平成30年度は16名、平成29年度は20名の新規入会があった。

②会員全体への効果や影響について

慢性的な提供会員不足に苦慮しながらも、依頼されたサポートはほとんどマッチングに成功している。

4 確保を実現できたポイント

(1)結果を出すために重要となったポイントについて

・提供会員との日頃からのコミュニケーションに重きを置いている。活動報告書を持参された際(月1回)、提供会員とコミュニケーションをとり、仕事の状況、家族の状況、サポートの状況などを把握し、マッチングに役立てる。

・提供会員のなかで活動的に取り組んでいるかたに、サブリーダーを依頼している。配慮が必要なサポートを引き受けてもらう、交流会の企画をアドバイザーと一緒に計画する等、リーダーとしての自覚をもってもらっている。

5 今後の確保のための改善点と改善策

(1)今後の目標や目指すところ、取り組みたいこと等

一概に提供会員の数を確保することには抵抗がある。提供会員を確保しても様々な事情(サポートのニーズの地域的な偏り、提供会員の高齢化、心身の健康問題など)で実際にはサポートにつながらない会員もいる。特に、市内でも地域によってはサポートのニーズがないところもあることから、講習会や講演会に積極的に参加している提供会員に対してもサポートを紹介できないことは珍しくなく、大変心苦しいと感じている。そこで、次のような方法で募集を行った。

・会員が不足している地域において、チラシの全戸配布を行う。

・シルバー人材センターの会員、退職予定の市職員に対する案内を行う。

(2)事業を行うにあたっての提供会員の重要性

会員が安心・安全に活動できるようアドバイザーと会員とのコミュニケーションを大切にすること

・アドバイザーと会員というよりも、井戸端会議をする感覚である。

・本部のほか、支部が2か所あるが、アドバイザー同士がコミュニケーションを密にとり、互いに信頼しながら業務

を行っている。その和やかな雰囲気は会員との関係にも良い影響を与えているのではないかと思います。

困難事例への対応

1 困難事例の対応のための体制、連携先

(1) 関係機関と連携について

市役所の保健師、要保護児童対策地域協議会から依頼が入ることがある。入会されてサポートをつなぐ場合、センターから連絡や相談をしながらマッチングを行う。実際にサポートが行われたケースについては、サポート中の様子等を情報提供する。また、センターがケース会議に同席してサポートの様子を伝え、状況把握を行い、サポートに活かすこともある。

(2) 連携のために工夫している点

以前、事前情報が得られておらずトラブルになった経験から、保健師や児童相談所が有している情報について、守秘義務に配慮した上で、少なくとも保護者への接し方に関する情報は提供してもらうようお願いしている。

必要な情報提供がなされるように、保健師や児童相談所との信頼関係を大切に、丁寧なコミュニケーションを心掛けている。

2 困難事例への対応にあたって重視した点

(1) 実際に対応した困難事例で適切な対応ができたと思う活動について

・両親の養育力に不安があり支援が必要な家庭の子どものサポート依頼が、保健師から入った。子どもが乳児院から自宅に戻る過程で、保育所の送迎をセンターに依頼された。児童クラブの指導員もしている2名の提供会員によるサポートが始まったが、お父さんは早朝出勤で家におられず、お母さんも子どもも寝ているままで、玄関も閉じている。提供会員が相当頑張っ起こして多少遅れても連れていく、といったように大変な状況で、保健師や児童相談所と協議しながら続けた。提供会員に疲れが見え始めていたところ、アドバイザー同席のケース会議があり、参加していた顔見知りの民生委員に声をかけたところ提供会員に登録し、サポートを引き受けてもらった。現在はその提供会員と両親が良好な関係で子どもの成長を見守っており、一つの成功事例といえる。

→以前は不登校児に関わる仕事に携わり、困難を抱える家庭に長年関わってきたアドバイザーもいる。困難を抱える家庭への関わりの難しさや課題もアドバイザー間で共通認識ができており、各アドバイザーが提供会員への傾聴や寄り添いなどの配慮を行って、提供会員が一人で抱え込まないようにしている。

・外国籍(ブラジル人)の依頼会員

→入会票、事前打ち合わせ書、重要書類について、ポルトガル語の書類を準備し、子ども政策課の通訳がファミサポ入会時の通訳をしている。ファミサポを理解してくれている通訳を通じたコミュニケーションが、トラブルの少ないサポートにつながっている。

3 困難事例、配慮が必要な家庭との向き合い方

(1) 困難事例に対して

『依頼会員としてサポートを必要としている』という見方から、困難の有無に関わらず引き受けるという姿勢である。

(2) 配慮が必要な家庭に対して

困難事例はそうでない場合に比べ、多くの配慮を要する。必要に応じて関係機関と連携をとりながら、マッチングを慎重に判断して行っている。

特色ある取組について

・直営であるため、アドバイザーも市担当者も同じ気持ちで取り組んでいる。市担当者は普段のサポートには関わらないが、困った際に内容を共有し、共に解決していく姿勢である。

・外国籍の依頼会員に対する対応(書類作成や通訳)が特徴的である。

これからの地域の子育て支援において、ファミリー・サポート・センター事業のあり方について

・子育て家庭のニーズは変化していくが、柔軟に対応していきたいと考えている。また、手助けを必要としている家庭に寄り添い、必要なところにずっとサポートを入れることのできる柔軟な組織でありたいと考えている。

・できるだけ依頼会員の意向に沿った内容を提供したいと思うが、子どもの成長にプラスになるのかと疑問に感じるケースもあり、そのようなケースにファミサポとしてどのように対応していくかが今後の課題である。

13. センター名：帯広ファミリーサポートセンター（北海道帯広市）

委託：認定 NPO 法人子どもと文化のひろばぶれいおん・とかち

提供会員の確保について

1 確保が必要となった背景や課題

提供会員の数自体は減っておらず微増だが、スタッフの気持ちとしては不足しているという感覚がある。

2 提供会員が不足していった経緯や問題だった点

一般的な高齢化や応募者が少ないということもあるが、帯広市の地域性である転入・転出の多さが大きいと考える。熱心に活動をされていた提供会員も、十勝から転出してしまうことが多い。また、ファミサポ活動を契機に自信をつけ、再就職される方も多い。加えてコロナ禍での活動に家族からの心配の声が多く、高齢の方や小さいお子さんを持つ方はほとんど活動できなかった。

3 提供会員不足を補うためにどのような取り組みを実施したか。

チラシ配布、ラジオ出演、市役所との交渉、スーパーへの訪問など、「できることは何でもしよう」というスタイルで取り組んでいる。

(1) 工夫した点

- ・発足当初より、毎月市担当課とミーティングをしている。数年前より市の広報で年1回講習会のお知らせを出してもらっている。市の広報は一番影響力がある。また、帯広市のウェブ上の子育て情報発信において周知している。さらに、帯広市が市内全郵便局や商業施設と結んでいる協定により、帯広市からの依頼により協定先すべてにチラシ貼りだしが可能になった。
- ・シェアが高い地方紙(十勝毎日新聞)に講習会案内だけではなく、提供会員とともに取材に応じるなど、写真や利用者の声を大枠で記載した。
- ・地元ラジオには行事の度に出演している
- ・委託先である NPO の会員から提供会員になることもある

(2) 上記の取り組みで苦労した点とその対応について

・行政の縦割りの弊害が大きく、部課間での稟議に時間を要する。直接担当課に交渉し、スピードアップの事例もある。また、センターの主要事業(サポート援助)で多忙な日常の中で、提供会員拡大のためのきめ細かな活動をする時間の確保が難しい。行政の協定を利用できたことは大きな省力と効果を生んでいる。

(3) 結果について

①提供会員の数の増加について

提供会員の数は毎年微増している。減少したことはないと思う。

②どのような良い結果があったか

平成 25 年の発足時から、講習会の項目によっては 2,3 名の受講生ということもあったが、令和 3 年の秋は新規登録が 23 名であり、講習会の受講生が 20 名前後というのも初めてであった。

③会員全体への効果や影響について

配慮が必要な家庭や多数回利用する利用会員に対して、以前は他の担当課に相談したり、他の民間施設を紹介したりしていたが、2,3 名の提供会員を紹介することができるようになった。

4 確保を実現できたポイント

(1) 結果を出すために重要となったポイントについて

すべてつながっているが、広報活動である。ポスターやチラシのほか、講習会に来ていただく提供会員に対して「お友達を紹介してください」ということにより、口コミも増えてきた。

大きなポイントは、子育て支援課を中心とした市との協働である。ネットも重要だが、リアルな紙媒体でのアクセスが大きいと感じる。

5 今後の確保のための改善点と改善策

(1) 今後の目標や目指すところ、取り組みたいこと等

・ファミサポを含めた親子の現状を行政の他部署に理解してもらうこと。委託先の NPO 法人として、帯広市の青少年問題審議会に入っているが、その場でファミサポを通じて見える子育て家庭の実情などを発信することを意識している。

・多世代の交流ができる場づくり。帯広市にはコミュセンや福祉センターはあるが、児童館など子ども中心に、多世代で人が関わられるような場がない。委託先の NPO 法人としては、多世代の出会いの場を意識して取り組んでおり、ファミサポにも良い影響が出ていると思う。

(2) 事業を行うにあたっての提供会員の重要性

会員が安心・安全に活動できるようアドバイザーと会員とのかかわりについて考えること

アドバイザーと会員との関わりで、信頼感が最も大切。信頼を得るために、レスポンスの早さ、支援に関する小話をする心を心掛けている。

・子育てでストレスフルな環境のなか、センタースタッフや提供会員の言葉尻を捉えて豹変する依頼会員が増えているように思う。そのような場合、もう一度ファミサポに対する信頼を取り戻すための対応、スタッフの教育が、現在課題である。

困難事例への対応

1 困難事例の対応のための体制、連携先

(1) 関係機関と連携について

直接の担当課である子育て支援課のほか、こども課、教育委員会、地域活動推進課(町内会・民生委員管理)と連携をとっている。委託先のNPO 法人の本体事業でつながりのある、幼稚園連合会、審議会、子どもの居場所づくり事業などのネットワークも強い。

2 困難事例への対応事例と対応にあたって重視した点

(1) 実際に対応した困難事例で適切な対応ができたと思う活動について

精神的に不安定で提供会員の自宅で話し込まれる依頼会員がおられ、スタッフが提供会員と依頼会員の間にいったところ、依頼会員の信頼を損ねてしまう出来事があった。この出来事へのフォローの過程で、依頼会員も提供会員や社会との関わりを学んでいる様子が見えてきた。また、スタッフにとっても、信頼関係の築きかたなどを学び、共有することができた。

3 困難事例、配慮が必要な家庭との向き合い方

困難事例というよりも、困難な家庭が多い。何が重要かということ、傾聴することで探れるようなスキルアップがスタッフに必要。また、自分たちだけで頑張らなくても、行政だけではなくいろいろな関係機関と連携しながら、提供会員と依頼会員の事務的なマッチングだけではなく、このお母さんはこう困っているからこの支援がぴったりだとか、こちら提案してみようとか、その背景に寄り添い、信頼関係を築いていく活動が続いていくことが理想。

特色ある取組について

1 アドバイザーのスキルアップの重要性とネットワークを活用した連携

・アドバイザーのスキルアップとして、女性労働協会の講習会の参加、参加者のレポート共有、報告書の回覧などをきっちり行っている。そのほか、北海道内のファミサポの交流会や子育て講演会への参加など、他の事例から幅広く学ぶようにしている。

・子育て支援課への報告について、毎月1回の活動実績報告のほか、活動のなかで気づくことを資料として渡す、現在取り組んでいることを細かくお知らせするなど、市から求められない情報も報告するようにしている。また、子育て関連の講演会などの場において、子育て支援課にあいさつなどの具体的な役割を求めて、関わるようにしていただいている。

・連携するためのアプローチとして、委託先のNPO 法人の会員を通じた情報やネットワークが活かされている。また、関りがないと考えられる部署(課)にもアプローチしていくことがポイント。

・帯広市の地図上に、提供会員・依頼会員をシールでマッピングすることで全体を把握する作業を行っている。

・一度活動ができなくなった提供会員に対しても、タイミングを見計らって働きかけている。

これからの地域の子育て支援において、ファミリー・サポート・センター事業のあり方について

行政の子育て支援は制度や事業に限界がある。問題意識をもった担当者のかたも人事異動がある。そのなかで、一人一人を見てもらえるような橋渡しをファミサポは行えると思う。「このようにすればできますよね」という提案をいかに行っていけるかが重要だと思う。行政の縦割りの弊害を破ることができる可能性が、ファミサポにはあるのではないかと。

1 4. 都道府県名：高知県

担当課：高知県 子ども・福祉政策部 人権・男女共同参画課

県としての取組の背景・きっかけ

1 ファミサポ事業の拡充の背景

高知県は全国に先行して人口の減少や少子高齢化が進んでおり、産業の振興、少子化対策、女性の活躍等を一体的に取り組む必要があった。少子化対策は、県の日本一の長寿県構想の中で取り組んでいる。その中で、高知版ネウボラの取り組みとして、まち・ひと・しごと創生総合戦略や妊娠期から子育て期まで切れ目ない支援を行っている。

このような取り組みを推進していく中で、ファミサポ事業のセンターの地域での子育て支援という仕組みが重要な役割を果たしてくることが明確であったので、センターを県内全域に普及させていくことが必要と思っていた。

2 提供会員確保のための取組への補助の実施に至る背景や経緯

ただ、高知市に平成 16 年にセンターができて以降、平成 26 年まで高知市のみだった。こういった政策や女性活躍推進法の施行などある中で、何ができるかといったところで、課題になっていたところが、小規模な自治体が多い高知県においては、50 人以上でないといけないという基準が非常にボトルネックになっていた。この基準があるため開設が難しいという声が市町村からも上がっていたため、平成 28 年から「高知版補助金」という形で、20～49 人のセンターを対象にした要綱を国の要綱とは別立てで構えて市町村の支援を開始した。

3 高知県としての独自の取組(周知・広報、補助金、講習等)とその狙い

「周知・広報」:ファミサポの制度周知のリーフレットを作成して、市町村役場やイベントなどで配布している。センターで会員獲得の活動や制度の説明会のときに利用していただいている。また、実際の活動の状況を紹介する小冊子がある。活動のポイントであったり、実際に利用してみて、預かる側としてどうだったか、預ける側としてどうだったか、両方の良かった点などを伺って、不安感の払拭に役立てていただいている。

その他にも県の広報媒体(ラジオ番組、TV 番組、CM)の活用や子育て応援イベントを開催している。

「補助金」:国の基準では対応できない人数規模のセンター開設のために、先述の高知県版補助金の拡充を進めている。

「講習会」:会員の増加とセンターの円滑な運営のために実施している。一つは、子ども・子育て支援員研修にくっつけてファミリー・サポート・センター講習を実施している。先に紹介したが、センターのアドバイザー対象の研修を毎年行っている。これは平成 28 年から開始した。

(1)工夫した点

センターへの補助金については、県の独自のメニューを多く(14～15 項目)実施している。また、県内最初のセンターである高知市を中心に、市町村、センター、アドバイザー、利用者の声を聞きながら、利用しやすいセンターの取り組み拡充を図っている。(具体的には、メニューについては記載省略)

(2)上記の取組で苦労した点とその対応について

周知・広報については、都会では認知度の高い制度であったが、高知県ではまだまだ認知されていない状況があり、その他にも、実際に預かったりすることに対する不安も払拭することが必要だった。さらには、市町村によってはニーズが不明だったり、ニーズ調査をしてもニーズが返ってこないといったこともあった。

(3)結果について

①提供会員の数の増加について

平成 27 年度から令和 3 年度までの間で 12 のセンターが増えた。会員数についても、平成 26 年度まで 1350～1360 人だったものが、現在 9 月末時点で 2100 人ぐらいに大きく増えた。そのうち、高知市以外の、小さく始まったけれども大きく育ったところを見ると、平成 27 年度は 1 カ所 58 人だったのが、令和 3 年度 9 月末には高知市以外の 12 で 930 人ということで、5 年半で 900 人ぐら増えた。

②効果・影響について

会員数とセンター数が増えてきたということは、県独自の制度を構えてやってきた結果だと思われ、小さいながらもスタートしたところであっても、50 人未満でスタートしたセンターでも、2～3 年後には 50 人を超えて、元々の国の基準に達するような取り組みに拡大してきたので、これまでやってきた意義があったのではないかと。

4 確保を実現できたポイント

(1)結果を出すために重要となったポイントについて

県の五つの基本施策であったり、まち・ひと・しごと総合戦略や日本一の長寿県構想といったところにしっかりと位置付けて取り組むなど、県の重要な取り組み・施策として位置付けて取組を進めてきたことが大きいので

はないか。

5 今後の確保のための改善点と改善策

(1) 今後の目標や目指すところ、取り組みたいこと等

市町村の担当課の職員の意見を逐一聞いたり、実際に設置されたセンターから、どんなことがあったらいいと思うかということ聞き続けて制度設計してきたことが良いところだと思っているので、今後もそれを継続することで、より良い改善策につながるのではないかと考えている。

困難事例への対応

1 困難事例の対応とファミサポ事業としての向き合い方について

アドバイザー研修をする前に質問を頂いて、それをみんなで共有して、他県の好事例としての対応例を紹介してもらったり、アドバイザー会の場所でアドバイザー同士だったり、県にも要望を積極的に言う感じで意見交換してもらって、事例を共有して解決している。

特色ある取組について

1 県と市町村のファミサポセンターとの連携について

さまざまな支援メニューを企画してやっているところと、広報や、不安を和らげるための取り組みに力を入れているところは、特色ある取り組みだと思う。そこは市町村や各センターから「こういったものがあっていいな」という声もありながら、そういった声を聞く中で作った冊子であったりしたので、日頃から情報のやりとりができていたことが功を奏しているのだと思う。

これからの地域の子育て支援において、ファミリー・サポート・センター事業のあり方について

ファミリー・サポート・センターの特徴の一つは切れ目のない支援であり、レスパイトも例に挙げたが、習い事への送迎というも他にはないことで、全国共通で送迎の活動が一番多いと伺っている。少子化対策だったり、女性の活躍だったり、子育てを支援することで、それが産業の振興にもつながっていくと考えている。この事業を拡大することにより、支援が必要な方に支援が行き届くということが最大の目標であり、事業の在り方ではないかと思う。そのために必要な財政的な支援だったり、広報活動の支援といった後方支援、下支えというのがわれわれ県の役割だと思う。